

全校朝会 校長講話「立春の話」 〇 2 〇 1

令和3年2月1日
港区立御田小学校長

今日から2月が始まりました。朝、あられが降ってのスタートとなりましたね。そして、明日は節分、明後日は立春です。そこで今日は、季節の話をしたいと思います。

一周を一年間とします。(黒板に円を描く) 一年は、春夏秋冬の4つの季節に分かれます。春の始まりの日を「立春」といいます。(提示) 春の始まりの日に名前がついているように、他の季節の始まりの日にも名前がつけられています。「立春」から、予想ができますね。「立夏」「立秋」「立冬」です。(提示) 新しい季節が始まる日の一日前を「節分」といいます。つまり、「節分」は4回あるのです。豆まきをするなどのならわしがあるので、この冬と春の節目の「節分」がよく取り上げられています。そして今年の「節分」は特別です。例年、節分といえば2月3日なのですが、今年是一日前の2月2日が節分です。これはなんと124年ぶりなのだそうです。

4回の節分で、一年は4つの季節に分かれています。中国から伝わった暦では、一年を24の季節に分けたものもあります。この一年を24分割したものを、二十四節気(にじゅうしせっき)といいます。24の季節には、全てに名前がついています。見てみましょう。(掲示)「春分」「夏至」「秋分」「冬至」などは、皆さんも知っているかと思いますが、中には、初めて見る季節もあるのではないのでしょうか。ひとつひとつにその時期の気候を表す意味が込められています。今後、それぞれの季節の始まりが、全校朝会のタイミングとをあったときは、「今日は〇〇(季節名)です。」などと紹介したいと思っています。

「立春」に話を戻します。二十四節気は、明後日の「立春」から始まります。つまり、昔は「立春」の日が、一年の始まりでもあったのです。「立春」の日に、これからの一年が良い年となるように祈願して、「立春大吉」というお札を家の入口に貼る習慣があります。(提示) その習慣が始まった理由がわかるこのような話が伝えられています。

ある時、鬼が大きな屋敷に忍び込もうとしていました。その屋敷の門には、「立春大吉」のお札が貼ってありました。鬼は、そのお札を見て門をくぐり、ふと後ろを振り返りました。すると、また門に貼ってあった「立春大吉」と書いた札が目に入りました。「おや、これはさっき屋敷に入ろうとしたときに見た札だ。ということは、まだ俺はこの屋敷の中へ入っていないのか?」と言って、鬼は屋敷の中に入っていたにもかかわらず、また、今入ってきた門を出て行ってしまったんだそうです。

なぜ鬼は勘違いをしてしまったのでしょうか。それはこの文字の形に隠されています。「立春大吉」の字を立てに半分に線を入れると、右も左も同じ形になっています。このような形の「立春大吉」は、表から見ても、裏から見ても、「立春大吉」と読めるのです。(提示) こうして、節分で豆まきをして鬼を追い払うように、立春の日には、この札を門に貼って鬼を入れないようにする習慣が始まったのだそうです。つまり魔除けですね。

「立春とは名ばかりの寒い日が続きます。」とは、手紙などの初めによく使われる文です。その通り、暦の上では季節は春でも、2月は一年で最も寒い月ともいわれます。寒くても、外で元気に体を動かすと、体はあったかくなります。2月の目標「寒さに負けず、元気に過ごしましょう。」を達成できるように進んで体を動かしていきましょう。